

第四章 千葉からみた皇室・皇室からみた千葉

● 行幸・行啓の記憶をとどめる

明治期以降、昭和期までの千葉県への行幸・行啓は六〇回近くになりま
す。その記憶を記念碑という形でとど
める動きがあったのもこの回数多き
と無縁ではないでしょう。記念碑建立
の時代背景はさまざまですが、現在
のわたしたちに当時の人びとが「ふれ
た」記憶を伝えるものです。

19 御野立所の碑

明治二十九年（一八九六）

千葉市稲毛区

明治十五年の八街での近衛師団演
習への行幸の際、休息をとった場所
に建てられました。確認できたなか
では最も古い建立です。

（御野立所・天皇・皇太子が野外
で休息された所）



● 弘文天皇伝説の再発見

房総には皇室に関連するいくつ
かの伝説が残っています。そのひとつ
が壬申の乱（六七二）に敗れた大友
皇子（弘文天皇）が房総に落ち延び
たというもので、君津市俵田の白山
神社は弘文天皇をまつるものと言わ
れています。明治期に旧久留里藩士
森勝蔵は白山神社境内の古墳を調査
し、弘文天皇陵とするよう働きかけ、
皇室の歴史と旧久留里藩地域を結び
付けようとした。

20 小櫃山古図

明治二十八年（一八九五）

君津市立久留里城址資料館蔵

森勝蔵が描いた古墳の図です。山
頂が戊辰戦争の砲撃で破損している
などの書き込みがされています。



● 名産品の献上

明治中後期から野菜や果物の栽培
が盛んになり、優良な品種が生産さ
れるようになると、地域では自治体
を通じて名産品を皇室へ献上しまし
た。なかでも房州びわは明治四十二
年に第一回の献上が始まったとされ
ます。

21 秩父宮雍仁親王妃台臨の 選果式写真

昭和三十八年（一九六三）

千葉県文書館蔵

昭和三十八年六月二十日には秩父
宮雍仁親王妃を迎えて選果式が行わ
れました。写真は千葉県の広報課が
撮影したものです。

（台臨・皇族が出席されること）



● 明治天皇御手許書類に残る 災害の記録

明治天皇のもとへは各道府県の教
育・社会福祉・災害などを報告する
資料がたびたびあげられました。そ
のなかには明治四十三年（一九一〇）
八月に発生した利根川流域の大洪水
についての被害状況報告も残されて
いました。

22 千葉県下暴風被害図

明治四十三年（一九一〇）

宮内公文書館蔵

千葉県編「千葉県管内実測全図」
に、被害状況が橙色、緑色、赤色な
ど被害の軒数別に色分けされていま
す。

